

表紙 の 説明

五稜郭(稜堡式城郭)について



表紙上段は、「五稜郭」に隣接した五稜郭タワーから撮影した雪の五稜郭で、下段は地上型レーザスキャナでの3次元計測データから作成した鳥瞰図です。両画像から半月堡や星形の稜堡など洋式城郭の特徴と構造がよくわかります。

■表紙画像のご提供先

「雪の五稜郭」——五稜郭タワー(株)
〒040-0001 函館市五稜郭町43-9
<http://www.goryokaku-tower.co.jp> Tel: 0138-51-4785

地上型レーザ画像——リーグルジャパン(株)
〒164-0013 東京都中野区弥生町5-11-29 フジビル2F
<http://www.riegl-japan.co.jp> Tel: 03-3382-7340
使用機器: RIEGL社製 VZ-400(ステップ角度0.04°)

徳川幕府は、ペリー艦隊来航の翌年(嘉永7・安政元:1854年)の日米和親条約締結に伴い、箱館(明治9(1876)年に函館と表記)の開港を決定しました。幕府は箱館を直轄地として箱館奉行所を設置し、さらに西欧の学問を研究するための箱館諸術調所を設けました。その後、箱館奉行所が無防備であるため、奉行所移転とそれに伴い洋式城郭である五稜郭の築城(安政4(1857)年から7年かけて完成)、弁天台を建設しました。

五稜郭は、蘭学者で箱館諸術調所教授の武田斐三郎がフランスから紹介された砲術書や稜堡土塁絵図面を写し取ったものを参考に設計しました。低地内に星形の五つの稜堡を構え、外周には水堀(濠)を設け、砲撃に備えて土塁は厚くしました。五つの稜堡の一辺長は約180mで、郭内には箱館奉行所と附属棟などがありました。

榎本武揚を中心とする旧幕府脱走軍と新政府軍との箱館戦争(1868~1869年)の際に奉行所庁舎の一部が損壊、その後に殆どが解体され、土塁と水堀が当時の面影を残しています。

隣接する五稜郭タワー上から五稜郭を見ると、最初に目に入るのが半月堡(図-1)です。これは馬出しで、兵員の集合場であると共に



図-1 半月堡の外観(五稜郭タワーから筆者撮影)



図-2 刎ね出し(筆者撮影)



図-3 稜堡の内側(筆者撮影)



図-4 140年ぶりに復元された箱館奉行所(筆者撮影)

郭外から内部が見通せないようにするための遮断機能を持つ空間です。また、五稜郭には幕末期の西洋式城郭の特徴である刎ね出しの石垣(図-2)が見られます。さらに、二の橋を渡り郭内に入ると見隠塁(一文字形の土塁)が立ち塞がり、強力な防御力と郭内を見通せないように工夫されています。稜堡の内側は図-3のように砲門の移動が可能な緩斜地とその前面の高い土塁で造られています。見隠塁を抜けるとその奥には箱館奉行所が

建っています(図-4)。これは2010年に140年ぶりに復元されたものです。

ちなみに後年、陸地測量部初代部長になる小菅智淵(1832~1888)は、旧幕府軍の一員として五稜郭での戦いを経験しました。

なお、五稜郭は函館だけでなく、長野県佐久市に小ぶりの五稜郭(龍岡五稜郭)があり、稜堡式城郭の面影を残しています。

(瀬戸島政博)